

Tropical Agriculture and Development 原稿作成要領

1980年8月4日制定

2020年10月5日改訂

A. 論文原稿（研究報文・短報・総説・情報・資料・海外情報）の作成要領

[1] ページ設定

A4 サイズ横書きとする。上下左右に 30mm の余白を取る。Times フォントで文字の大きさを 11 ポイント、1 頁 25 行、1 行 75 字程度とする。原稿の左側余白部に頁毎に各ページについて 5 行毎の通し番号を、用紙の下端部中央に頁数を記入する。

[2] 記述構成

原稿は表題、欄外見出し、著者名、所属機関名と所在地、要約、キーワード、改ページの後、本文とする。本文（原則として Introduction, Materials and Methods, または Methods, Results, Discussions, Acknowledgements, References）、図表、図表の表題一覧の順で構成する。大項目（Introduction, Materials and Methods または Methods, Results, Discussions, Acknowledgements, References など）の見出しは中央寄せ太字、中項目は左寄せ太字とする。小項目を設ける場合には左寄せイタリックとする。

表題と欄外見出

表題は十分に内容が分かるようにかつ簡潔に記す。表題は太字で、前置詞と接続詞を除く単語の頭文字を大文字にする。欄外見出は 50 字以内、太字にしない。表題の頁に論文種別、表題、欄外見出し、著者名、所属機関、責任著者のメールアドレスを明示する。

著者名

名姓の順とし、姓は大文字とする。著者が 2 名の場合は and でつなぐ。3 名以上の場合にはコンマ「,」で区切り、最後の著者名の前に and を入れる。責任著者を「*」で示す。（例：Taro YAMADA and Ichiro TANAKA*）

所属機関名と所在地

所属機関、所在地、郵便番号、国名の順にイタリック体で記す。

要約

研究報文には 240 語以内を 1 段落でつける。総説、情報、資料には要約をつけなくてもよい。短報には要約をつけない。

キーワード

研究報文、総説、情報、資料のキーワードは 6 語以内、短報は 3 語以内とする。表題に含まれない単語が望ましい。コンマで区切り頭文字を大文字にしてアルファベット順に配列する。

動植物名の表記

学名は国際命名規約に依拠してイタリックで示す。英語以外の現地語方名などは小文字イタリックで表記する。物質

名を省略して表記する場合には初出箇所では正式名称を示し、括弧内に省略形を示す。

単位の表記

国際単位（SI 単位）系（付表参照）を用いるが、SI と併用されるが SI に属さない単位、分(min)、時(h)、日(d)、度(°)、分(')、秒(")、リットル(L)、トン(t) については使用できる。単位は立体文字（ローマン）で記し、斜体文字（イタリック）にせず、英語複数形の s やピリオドなどは付けない。数値と単位記号との間は 1/2 ～ 1 字分の空白を置く。

数字の桁数が多い場合には、3 桁ごとにコンマによって区切ってもよい。

複数の単位の積で表される組立単位は、各単位を積の記号（・）で結びつけて表す。（誤解する恐れが無ければ積記号は省略しでもよい。例 N・m, Nm）

複数の単位の商で表される組立単位は、負の指数を付けて表す誤解の恐れがある場合にはスラッシュ（/）の記号を使用してもよい。負の指数が付く単位が複数ある場合に商記号を用いて表す際はそれらを（ ）の内に入れる。

SI 単位でないものが混じる場合は、/ を使う。（例 kg/person, 円/person）

接頭語は 1 つしか使用できない。（例 mg・cm² → 10g・m⁻²; mμF → nF）

謝辞・脚注

謝辞をつける場合には考察の後に配置する。助成金などの外部資金については謝辞に記す。脚注をつける場合には、本文中に当該箇所を 1) 2) 3) … の上付で明記し、引用文献の前にまとめて脚注を記載する。

引用文献

引用された文献はすべて文末の引用文献リストに列記しなければならない。文献の配列順序は第 1 著者名のアルファベット順に従う。第 1 著者名が同じ場合は単著を最初におき、そのあとは第 2 著者名以下のアルファベット順とする。すべての著者名が同じ場合は発表年の順とする。著者名が同じで発表年も同じ場合、発表年のあとにアルファベットを付して 2000a, 2000b のように区別する。著者が 3 名以上のとき、第 1 著者名が同じで発表年も同じ場合には、第 2 著者名が異なっている、年にアルファベットを付けて区別しなければならない。和文英文のいずれでもない文献は、(in Vietnamese with French summary) などと付記して言語を明示する。受理されたが出版されていない文献には“in press”と付ける。

引用文献リストの表記

引用文献リストの例：

研究報文・総説・情報・資料について

[i] 学術雑誌・定期刊行物・要旨集など

著者名 年. 論文タイトル. 掲載誌 (省略形). 巻: 頁 - 頁.

例 : Richter, M., H. George, and G. W. Turner 2012. Effects of summer pruning on winter growth of atemoya cv. Jeffner. Jpn. J. Trop. Agr. **5**: 233-238.

Williams, A. L., C. Johnson, and J. Smith 2012. Traditional agriculture in the Philippines: A progress report. Trop. Agr. Develop. **45**: . (in press)

Yamada, T., T. Endo, and I. W. Harper 2012a. Yield components of rain-fed paddy fields in Northeast Thailand. Hawaii Agr. Exp. St. Tech. Bull. **179**: 1134-1142.

Nguyen, T. V. 2009. Effects of paclobutrazol in off-season flower induction of 'Kho qua xanh' durian. Proceedings of the 13th Symposium on Fruit Production in the Mekong Delta. Hue University (Vietnam) Dec. 15-18, 2008. pp.10-12. (in Vietnamese with French summary)

[ii] 書籍

書籍の主著者（全体を引用）

分担著者名 年. 引用記事のタイトル. 『本のタイトル』出版社（所在地）p. 総頁数.

書籍の主著者（部分を引用）

著者名 年. 引用記事のタイトル. 『本のタイトル』出版社（所在地）pp. 頁 - 頁.

書籍の分担著者

著者名 年. 引用記事のタイトル. 『本のタイトル』（代表著者名）出版社（所在地）pp. 頁 - 頁.

例 : Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO). 2009. Production Yearbook. Vol. 45. FAO (Rome) p.120.

Martin, J. P., E. L. Bernard, and R. T. Dubois 2010. Productivity of root and tuber crops in tropical wetland. In: Plants and People in Asia. (Moreau, W. C. ed.) Lutetia Academic Press (Paris) pp. 225-230.

Morton, J. F. 1987. Mango. In: Fruits of Warm Climates. Julia F. Morton (Miami) pp. 221-239.

[iii] ウェブサイト

著者名 年. 文献タイトル. URL (年 月 日確認)

World Health Organization (WHO) 2012. Chapter 1. Guideline for drinking-water quality. In: World Situation for Water Management. pp.5-12. [Online] http://www.who.int/water_sanitation_health.pdf (browsed on May 15, 2012)

短報について

短報では雑誌に掲載された論文のタイトルは省略する（以下に例）。本のタイトルは省略しない。

[i] 学術雑誌・定期刊行物・要旨集など

Richter, M., H. George, and G. W. Turner 2012. Jpn. J. Trop.

Agr. **5**: 233-238.

Williams, A. L., C. Johnson, and J. Smith 2012. Trop. Agr. Develop. **45**: . (in press)

Yamada, T., T. Endo, and I. W. Harper 2012a. Hawaii Agr. Exp. St. Tech. Bull. **179**: 1134-1142.

Nguyen, T. V. 2009. Proceedings of the 13th Symposium on Fruit Production in the Mekong Delta. Hue University (Vietnam) Dec. 15-18, 2008. pp.10-12. (in Vietnamese with French summary)

図、表および写真

図、表、写真、および組写真によるプレートは1頁に一つとする。番号をつけ、表は“Table 2.”のように表記し、図は“Fig. 2.”のように表記し、本文中では“Table 2”のように表記し、図は“Fig. 2”のような表記とする。表の題は表の上に、注などは表の下に記入し、末尾にピリオドをつける。図の題、注などは図の下に記入し末尾にピリオドをつける。補足的な説明は図表の下に続ける。図表の表記を英語で作成してもよい。表には縦罫を入れない。表の最上位線は二重線とする。図の目盛は原則として内側につける。図と写真は鮮明なものに限る。そのまま印刷できない不鮮明なものは受け付けない。

付表 SI 単位について

SI 単 位 記 号

種類	単位記号 [定義]
長さ	m
質量	kg
時間	s
力	N $[\text{kg} \cdot \text{m} \cdot \text{s}^{-2}]$
圧力、応力	Pa $[\text{Nm}^{-2} = \text{kg} \cdot \text{m}^{-1} \cdot \text{s}^{-2}]$
物質の量	mol
エネルギー	J $[\text{Nm} = \text{kg} \cdot \text{m}^2 \cdot \text{s}^{-2}]$
仕事率	W $[\text{Js}^{-1} = \text{VA}]$
温度	K $[273.15^{\circ}\text{C} = 0 \text{ K}]$
平面角	rad
立体角	sr
電流	A
電荷	C $[\text{As}]$
電位差	V $[\text{J}(\text{As})^{-1}]$
電気抵抗	Ω $[\text{VA}]$
コンダクタンス	S $[\text{AV}]$
電気容量	F $[\text{CV}]$
磁束	Wb $[\text{Vs}]$
磁束密度	T $[\text{Wb} \cdot \text{m}^{-2}]$
インダクタンス	H $[\text{Wb} \cdot \text{A}]$
光度	cd
光束	lm $[\text{cd} \cdot \text{sr}]$
照度	lx $[\text{cd} \cdot \text{sr} \cdot \text{m}^{-2}]$
放射能	Bq $[\text{s}^{-1}]$
吸収線量	Gy $[\text{J} \cdot \text{kg}^{-1}]$
線量当量	Sv $[\text{J} \cdot \text{kg}^{-1}]$

Type of article: Regular paper

Title: Response to Photosynthesis of Sugar Beet Cultivated with Conventional Surface Irrigation and Drip Irrigation in the Nile Delta, Egypt.

Running title: Response to photosynthesis of sugar beet in the Nile delta.

Authors: Katsuyoshi SHIMIZU^{1,*}, Korany Abdel-GAWAD²

Affiliated Institution:

¹ Faculty of Life and Environmental Sciences, Univ. of Tsukuba, 1-1-1 Tennoudai, Tsukuba, Ibaraki 305-8572, Japan

² Faculty of Agriculture, Cairo University, Giza 12613, Egypt

*Corresponding author

shimizu.katsuyosh.gm@u.tsukuba.ac.jp

Keywords: ABA, Ca, Light-curve, Photosynthetic rate, Stomatal conductance

Abstract

Sugar beet (*Beta vulgaris* L.) is cultivated for sugar production and it is the second source of sugar next to sugar cane in the Nile delta. Sugar beet can store a high percentage of

sucrose.
.

-1-

----- form feed -----

Introduction

Food production in the Nile delta fields has supported Egyptian people's daily life for a long time (Hamdan, 2000). In the Nile delta area, farmers can cultivate crops all year round because the weather is hot in summer and warm in winter.

Materials and Methods

Growth increment

Experiment 1

Sugar beet (*Beta vulgaris* L., cv. TOP) plants were cultivated at the experimental fields of Agricultural Research Center in Sakha, Kafr El-Shaikh, Egypt. Field soils are classified according to "Soil Taxonomy" as order Vertisols.
.
.